



新たに導入された羽柄材加工機

# 2羽柄材プレカットを ライン自動化

マルダイ

## 4号特例見直しで利用増見込む

大型小売店のマルダイ（静岡県富士市、深沢裕一郎社長）はこのほど、自社プレカット工場の羽柄材プレカットラインを2ラインに増設、稼働している。これにより羽柄材加工能力は12棟（日）クラスに引き上げられ、構造材ラインとのバランスが図られた。建築基準法4号特例の見直し等で、羽柄材の加工需要が拡大するとの判断に基づくライン強化策の一環で、今後は工務店やビルダーのニーズに対応し、川下との連携を強めていく方針だ。

同社は単一大型小売店で、年商は約100億円で、これまで在来店舗方式約91億円でプレカット・金物対応の構造材3で知られる。業務は平成7年から開始し、これまで在来ライン（月産約800

0坪）と羽柄材・合板各1ラインがある。

今回の羽柄材ライン増設は、4号特例の見直しなどの法改正により部材・工程管理や加工品質等の重要度が増し、羽柄材の工場加工が標準化するとの見通しに基づくもの。

新ラインには宮川工機製の羽柄材加工機（MPC-14）が導入され、間柱、筋違、根太、タルキなど羽柄材全般の加工を担当。すでに24時間操業に入っている。「量産向けに材料投入や搬出部分をカスタマイズした」（同社プレカット部門）。

なお、今回の設備投資額は約1億円。